

## 「平成28年度高山市一般会計歳入歳出決算に対する討論」

創成クラブ代表 中田清介

今回の決算審査過程で問われたのは、課題解決への行政の本気度ではなかったかと感じています。行政あって政治なし、執行あって経営なしとの言葉があるように、変革期の課題解決に対応しきれない組織の弱さ、掛け声ばかりで実践できない経営感覚に今後の課題を残す結果となったと感じています。

鳴り物入りで取り組んだはずの事業の予算執行率の低さ、現場対応力が問われた入札不調の問題など、審査過程での指摘は多岐にわたりました。こうした問題は去年も指摘しておきましたが、政策立案段階からもう少しその精度を上げる努力が必要であると認識するところです。

また、監査委員の指摘事項にあった収入未済額や債権管理の問題などは、まさに自治体経営といった観点からみれば、見解の相違とばかり言っていられない問題ではないかと感じます。

我々議会は決算審査を重視しています。審査過程で浮かび上がった課題解決への道筋が次の予算に活かされる、政策のPDCAサイクルを重視するからです。その意味からいえば、今後の予算編成に今回の審査過程での指摘がどう活かされるのか期待もし注目していきたいと思います。

もう一点、今回提示された事業評価シートは大きな役割を果たしてくれました。まさにそのサイクル過程が把握できる改善がされ、いわゆる内部の検証、外部の評価に大きく役立つものと評価するものです。しかしながら少し読み込む為の時間的余裕がなかったことに改善の余地があり、チームとしてその把握に努める議会の対応が、いま少し不足気味であったと反省するところです。

ラインとスタッフといわれるように、組織として動かねばならぬ行政には、大所帯であるが故の機動性に欠けることも確かです。しかし様々な意味で日々の業務の中での「気づき」や「新しい発見」は必ずあるはずで、そうした点をくみ取りその執行に活かすのはトップと役職者の仕事であると認識するところです。

昨年も持続可能な自治体経営を目指す中では、議会も行政も大きな意味での変革期に対応する力が必要であると述べたところです。我々も今後ともそうした努力を続けることを表明して、平成28年度高山市一般会計歳入歳出決算の認定に対する賛成討論といたします。